

みんなで協力 身近な環境改善
グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

ツクシ摘みをする小学生



完成!



ナミテントウ



ホトケノザ



ベニシジミ(春型)



カタバミ

「沢地グローバルガーデンの草花・生き物ミニ図鑑(冬春版)」

※上のいくつかは、ミニ図鑑から抜粋。参加者がガーデンで撮影して仕上げました。

Ⅱ期・Ⅲ期GW IのOJTとしてグローバル文化交流協会に参加された方々と、約1年掛けて「沢地グローバルガーデンの草花・生き物ミニ図鑑(冬春版)」を完成させました。夏秋版のとき同様に、近隣の小学校等へ寄贈して、学習の一助にしていだければと考えています。参加者が驚いたのは、当初、草花図鑑を目指していましたが、意外に生き物が多く生息していたことでした。ガーデンは一年中、草花と生き物のワンダーランドと言えそうです。つつい道草をしたくなるような場所なのかもしれません。

平成23年度 第4回理事会・評議員会 開催

3月23日(金) Via701にて第4回理事会・評議員会が開催されました。欠席者からは委任状が提出され、会は成立と報告されました。

■第1号議案 一般会計事業の進捗状況の件(地域活動)

平成24年度以降の主要事業

1. 「松毛川千年の森づくり事業」の実施
2. 「(株)グラウンドワーク・グリーンジョブ(仮称)」の設立
3. 学校法人「地域再生大学」の創設
4. 境川・清住緑地と丸池・元綾部養魚場を含めた「大湧水公園整備事業」の実施

■第2号議案 特別会計事業の進捗状況の件(東日本大震災支援活動)

「子どもを元気に富士山プロジェクト」活動報告

■第3号議案 全国会計事業の進捗状況の件(地域社会雇用創造事業)

GW三島「地域社会雇用創造事業」の報告

■第4号議案 内閣府「復興支援型社会雇用創造事業」の受託について

復興支援型地域社会雇用創造事業 選定事業者と事業規模(目標数)

■第5号議案 定款の変更について

■第6号議案 その他

理 事 会

理事長 緒明 實
理事 小野 徹、加藤正之、北岡和義、小松幸子、室伏勝宏、渡辺豊博
監事 遠藤 隆、速水洋志

評 議 員 会

評議員 青木利治、秋山峰治、五十島正修、太田黒敦雄、越沼 正、小浜修一郎、斎藤彩子、清水純子、志村 肇、杉本政博、田中 穰、原 知信、春名 薫、広川敏雄、水野幾子、森 昭夫、渡辺昭信、渡辺憲次

事 務 局

事業推進部長 松田徳子
地域活動担当 村上茂之



★「子どもを元気に富士山プロジェクト」に被災地の方々が既に1,000人以上参加。これからも、この活動は引き続き行われます。★Ⅰ期～Ⅲ期GW Iのインキュベーションに応募者は601人で起業者109人。目標の100人を達成。★「松毛川千年の森づくり」を「第2の源兵衛川」を目指して取り組んでいきます。GW三島の創立20周年記念事業の1つにも。



★「函南さくら保育園」に「遊水匠の会」が水車を寄贈。★大人も子どもも学ぶことができる自然環境づくりに取り組んでいきます。★子ども時代の良い体験が、すばらしい未来につながっていくものだと思います。多くの方々のご支援に対して、GW三島関係者一同感謝申し上げます。★子どもの笑顔、大人の笑顔が、街の力につながっているようです。 -1-

「三島街中カフェ」・・・こぼれる「笑顔」、ひろがる「つながり」・・・

ワンコイン・パソコン講座

自分のノートパソコンで学べる、笑顔いっぱいの家庭的な雰囲気講座。ワードでの文章作りやインターネット、メールなどを学びます。パソコンの貸し出しもしている人気の講座。



外国人への「ユニーク日本語講座」



健康ま〜じゃんサロン

初心者は丁寧な説明を聞き、すぐに楽しめるようになります。世代も様々です。



野菜を売ったり、フリマをしたり、おいしいコーヒーが飲めたり、源兵衛川の希少種水族館を見ることができたり、ソバ打ちもできたり、「街の賑わい」創出には、「三島街中カフェ」の店舗も会議室も大いに貢献しています。

「高齢者ふれあいシンポジウム」開催

2月2日(木) 13:00~16:00、三島市民文化会館にて講演会とシンポジウムが開催されました。平日にもかかわらず134人が参集し、関心の深さを感じさせました。

「三島街中カフェ」で「洗心亭(高齢者身の上よろず相談室)」を、賛同者と毎週金曜日に開催している小浜修一郎さんも、パネリストの1人として介護の話を交え貴重な体験を語りました。



日本大学の留学生、グループホームでボランティア



「アウトドアや介護のボランティア活動に参加登録したい」とGW三島事務局を訪れた日本大学の留学生2人は、「三島ゆうすい会」の「七草粥のつどい」の手伝いやガーデン作業、竹あかり設置等々、様々な活動に参加しています。

1月21日(土)には、小浜修一郎さんの紹介で、グループホームでのボランティアを体験しました。高齢者との交流は、折紙、歌、書道などを一緒にしながら和やかな時間が過ぎていきました。「また来てね」は、嬉しいひとことでした。



「笑顔のコーチング」

北澤八重子さんと大学生の久保悟史さんの共同企画。「笑顔のスイッチはどこに?」「笑顔は何を生み出すか」を、20代~70代の参加者は、体験型ワークショップで考えました。



小学生のお仕事体験(全5回)

企画運営は大学生の山口昌子さん。小学生は、「三島街中カフェ」での店番や接客体験、駄菓子子の仕入れや販売体験、野菜収穫と販売体験、企画イベントにはクイズを実施しました。ボランティアスタッフも毎回協力し、地域の方々も珍しそうに立ち寄りました。

「三島街中カフェ」のボランティアスタッフから「ひとことコメント」

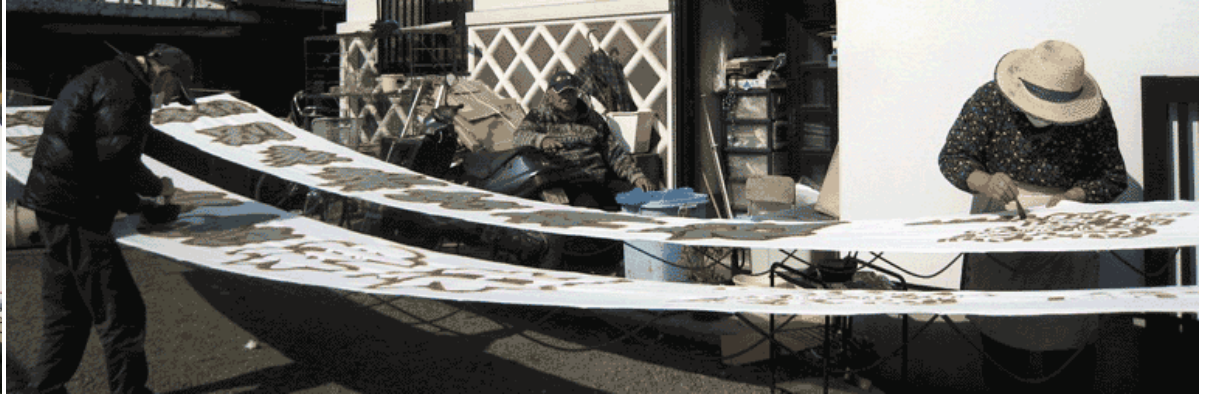
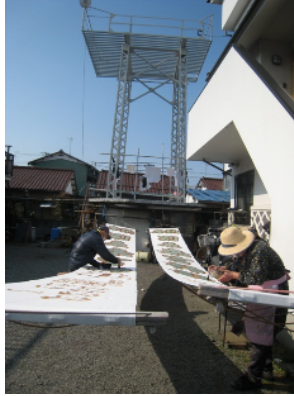
- ・土曜日は、子どもたち、学生さん、会社員、観光客など、平日に利用できない人のためにオープンしています。
- ・関わるようになって日が浅いのですが、土曜日にカフェが開くときは、喜んでお手伝いさせていただきます。
- ・来訪者はリタイアされた方が多いです。以前のお仕事のことなど、幅広いお話が何えてとっても楽しいです。東京からの旅行者が多いようですが、「三島は素晴らしい!」「今度、源兵衛川を見に、また来ます」と言ってくれます。
- ・小学生や小さな子ども連れの親子などが、カフェで遊んでくれることはとても嬉しい。春休みには、駄菓子目当てに来た子どもたちがトランプなどを楽しんでいます。野菜市は、8割が常連客。お得意さんとおしゃべりも楽しい。
- ・「一期一会」かもしれない旅人に、我が街・三島の「心のときめき」を分かち合える場を持っているという体感。
- ・多芸、気ままな老若男女によるエネルギーで「親しみ活動空間」に、進化し続けられる可能性を秘めた場。



伝統の染の手業を今に

遠州屋染店 4代目 たかぼやし やすたか 高林 保巨さん

三島市東本町に在住



明治元(1868)年創業以来の遠州屋染店 4代目当主。屋号の遠州屋は、初代の出身地が花火と染物の産地、遠州浜松だったことに由来する。



遠州屋染店が手がけた
龍澤寺の法被

初代は農業の傍ら、夏は花火、冬は染物の仕事をし、毎年夏、三島に打ち上げ花火の技を競いに来ていた。“花火と染物”は無関係のようだが、火薬と染物に使う薬品には“色を出す”という共通点がある。それには、季節や天候により材料の分量を微妙に変える“さじ加減”が重要。

また、染物屋にとってきれいな水は“命の水”。富士山からの溢れんば



熱く語る5代目 和弘さん

かりの湧水は初代を虜にし、三島に根を下ろすことになった。年間の水温が15～16℃とほぼ一定の三島の湧水は、木綿や麻などの型付けをした布を晒すのに最適な硬水だ。一方、絹は軟水の方が適し、硬水で絹を晒すと絹地の表面がすれてしまうことから、「絹が腫れる」と言うそうだ。

明治から大正にかけて、桜川、御殿川、源兵衛川、宮さんの川（蓮沼川）沿いには25軒の染物屋があった。昭和2(1927)年の静岡県調査によると、22軒になった。当時、染物の工程は何軒もの人手を亘る分業だったが、今ではその全ての工程を遠州屋だけでまかなっている。

昭和33(1958)年、作業場の脇を勢よく流れていた桜川の水が、急に流れなくなってしまった。それまでは、あまりの急な流れに、晒していた染物が横浜ゴムの方まで流され、追いかけていったことも度々あったほど。そこで敷地内に晒すためのプールを設けるのだが、結果的には体力負担が随分染になった。とはいえ、「あの絶えることのない流れを取り戻すことが出来たなら、自分自身の若さも取り戻せるような気がする」と、当主は言う。

染物業界も仕事が減り、地元の仕事だけをこなす時代ではなくなった。ネット社会は情報化社会であり、物流の拡大も目覚ましい。情報量の多い客に対し、どんな新たな提案が可能か、染物屋でも最新の技術で対応していかなければならない。当主の伝統の手技と、最新技術を受け持つ跡取りの和弘さん、その2人を取りまとめる奥さんのきみ江さん、正に家族の共同作業だ。



木綿の晒し風景



遠州屋染店の
裏を流れる桜川



旧下田街道沿いにある遠州屋染店



英国北部を訪れたGW I (グラウンドワーク・インターンシップ) の研修生たち

GW三島シニア・アドバイザー ロビン・ヘンショウ

日本人グループの皆さんが英国に来てくださることを、私はいつも嬉しく思っています。訪問された皆さんに、ここでの活動を紹介し、様々なアイデアを交換することが好きなのです。

2011年9月にグラウンドワーク(GW)三島から派遣されたグループは、いつもより多く30人以上の参加者でした。「グラウンドワーク・インターンシップ・プログラム」を受講した上級クラスのメンバーです。

最初、私のホームタウンであるロッチデールを訪れ、そこで呼び物の歴史的な地域研修センターの協同展示場に行きました。1840年代、地域の産業化が始まったばかりの頃、地域の労働者たちが集まり、世界中の協同運動の初めとなった事業を創設したのです。それは最初の「ロッチデール・パイオニア」として知られ、主に彼らによって事業は発展しました。この初期の社会的企業の例は世界的に影響を与え続け、そのアイデアや実践は、NPOの発展を考える人にとって研修するに値します。これこそ日本からの研修生たちの目的と言えましょう。

次に訪れたのは、田舎の古いティールームにセットされた昼食会場でした。そこでは地方の伝統的料理である「肉とジャガイモパイ」と「クリーム入りパンケーキ」が出され、とても楽しい経験をしました。それは、旅行者や訪問者にケイタリングするというような様々な社会的企業を考えている人たちに刺激を与える良い例でした。

グループは、客車を引っ張る古い蒸気機関車のあるヴ

ィクトリア鉄道にも乗りました。私たちは東ランカシャー遺産鉄道のボランティアの1人から講義を受けました。彼は、この蒸気鉄道のように歴史的技術を残すのにNPOの影響力がいかに強いのか、そしてそのことが地域の経済を如何に潤しているかを語ってくれました。

その後、私我家で質疑応答のミーティングをしました。訪問者を迎えることは、私の妻クリスティーンや私にとって大変光栄なことでした。その後、ロッチデールから2~3マイル離れた田舎の湿原地にある「17世紀宿」で夕食を楽しみました。

2日目は英国で最初の国立公園となったピーク地方への訪問でした。その日は素晴らしい天気恵まれ、私たちが歩いて上った谷の側面は紫色のヒースに覆われ、それらは太陽の光に明るく輝いていました。私たちは「ナショナルトラスト」のようなNPOの役割、いわゆる特別な地域の保存や田舎での社会的企業の進出の機会等について話し合いました。

英国の北部をもっと訪れればよかったのですが、グループはバーミンガムとロンドンに移動しなくてはならなかったため、英国で一番高いマーケット・タウンのバクストンで別れました。その町は、英国ではほんの僅かしかない温泉街の1つです。

研修生たちは、たくさんのアイデアを持つことが出来、きっと英国での経験を喜んでくれたことでしょう。また、私自身も、この研修旅行に参加し、それは素晴らしい経験だったと思っています。



「ロッチデール・パイオニア」で



「ロッチデール地域研修センター」



ロッチデールでの研修生たち



地域伝統料理の「肉とジャガイモパイ」



ロッチデール近郊の田舎で



東ランカシャー遺産鉄道に研修生らと乗る我が家族



我が家の庭でミーティングと記念撮影



ピーク地方のイーデル近くで



英国の温泉街の1つ、バクストンで

～グラウンドワーク三島の近未来～

会社設立や教育機関創設を視野に

今年、平成24(2012)年9月に、設立20周年を迎えるNPO法人グラウンドワーク三島。この節目に合わせて、同法人を資金面で支えるための株式会社の設立や、地域で活躍する人材を育成する大学院的な教育機関の設立を視野に入れている。渡辺豊博GW三島事務局長は、英国で視察した先進的な事例を参考にしながら、日本のNPO法人に新たなモデルを構築したいと思っている。

英国で代表的な社会的企業の創業者やグラウンドワークの責任者、慈善団体のトップらと意見交換を重ね、「時代の流れの中で何が要求されているのかを的確につかまないと、自己満足的で独善的な活動になってしまう。NPOが積極的に変わっていく必要性を感じた」と渡辺事務局長は強調する。

株式会社では、自然環境や歴史、食文化などの地域資源を生かし商品化してビジネスを展開する。現時点ではバイオトイレや遊休農地で栽培した「三島そば」の販売、カフェの運営などで利益を得る方針。設立から5年程度を目途に年商1億円を目指す。利益はNPO法人などの社会貢献活動に役立てる。また、教育機関はNPO活動を運営、実践できる人材を育てる構想である。

クリエイティブをめざすNPO



【寄稿】 北岡 和義

1979年9月渡米、ロサンゼルスで27年間過ごし、英語も分からないのに20年余も日本語テレビ番組を制作、放送してきた。バブル経済が弾け、“Lost '90”で地獄を見た。ボロボロになり、ホームレス寸前で27年ぶりに故国の土を踏んだ。

縁あって日本大学国際関係学部で教壇に立つ羽目となり、三島暮らしが始まる。当然、ぼくの興味と関心は地元・三島に向けられた。

友人の新聞記者からグラウンドワーク三島の活動を知った。源兵衛川の再生プロジェクトには目を瞠った。せせらぎの遊歩道を歩き、富士の湧水の清冽なる流れに魅せられた。まるで必然のようにジャンボさんと出会い、意気投合。理事としてサポートしてほしい旨の要請があった。蛍おばさんや順天堂大のセンセイとも親しくなった。

NPO活動は今年で満20周年。最早、GW三島の知名度は“全国区”である。NPOながら経営感覚も優れている。運動を支える事務局に優秀で魅力ある若者がいる。

今、震災の支援活動に余念がないが、町の活性化に、やるべきこと、やりたいことは無数にある。訪れたい街、住みたい町への脱皮だ。

そう、昨秋、逝ったスティーブ・ジョブズの言葉。

“Stay Hungry, Stay Foolish”

常に追い求めつづけよう、ひたすら愚直に。

凄いインパクトあるメッセージではないか。ジョブズの生涯はビジネスマンでありながら、クリエイティブ・ライフをめざすNPOの性格が色濃い。

日本大学国際関係学部非常勤講師／ジャーナリスト
グラウンドワーク三島理事

ふるさと南相馬の復興を祈りつつ



すぎやま ひろこ
杉山 ヒロ子さん

福島県南相馬市出身。三島市在住30年。

「三島街中カフェ」担当が知人だったことをきっかけにGW三島と関わり、平成23(2011)年2月から「三島街中カフェ」担当の1人となる。

「ボランティアはされるより、一生かけてもしたいこと」。この思いは幼少時、祖母を手伝って味噌作りや農作業の人への食事作りをしたこと、中学生、高校生の頃に経験した募金活動などが、今につながっている。

東日本大震災当日は、Ⅲ期グラウンドワーク・インターンシップの研修で「三島街中カフェ」にあり、水槽が大きく揺れるのを目の当たりにした。東日本大震災で破壊された郷土の自然を思うと胸が痛む。実家は福島原発から35kmの距離のため、それまで手に触れることができた山や川の幸、畑の作物、果実、雑草さえも虚しく眺めるだけだ。

三島には、何の心配もなく触れることができる豊富な水と緑がある。そんな街にもっと人を集めたい。

震災以来、相馬の天気予報がテレビ画面に表示され、GW三島をはじめとする様々なNPO団体の支援活動が広がっているのを見ると、さらなる協力をしていきたいと語った。歴史から小説まで幅広い読書と水彩画、パソコン講座などで生活を楽しんでいる。

「春の桜、秋のコスモス・・・相馬の美しい季節に、みんなを連れていきたい」。



パッション No.12

新たな社会奉仕「環境保全」

三島ロータリークラブ社会奉仕委員は、活動目的として、職業奉仕の理念に基づいた上で、地域社会のニーズを吸収し、会員の叡智を集め、継続性のある奉仕活動を選択して、クラブの「長期計画」を作成するよう心掛けています。

社会奉仕には、人間尊重、地域発展、環境保全、協同奉仕、識字率向上、薬物乱用防止、高齢者への心遣い、エイズ教育、ポリオ撲滅などの特定分野があります。昨年来、環境保全を中心とした目的で活動内容を検討してきました。松毛川計画はその一環の活動目標でありまして準備検討の結果いよいよ実施するようになりました。昨年より事前に見ていただいたとおり、元狩野川で三日月形の閉鎖流域の瀧川です。湖畔林(河畔林)の一層の復旧を目指し、その植栽計画をたてるには、地域の植生を研究していきます。グラウンドワーク三島は専門家の現地調査の結果を発表し、およそ15種類の樹木を選定してくれました。密植方法で行うことによって、植栽効果が上がることを期待します。



三島ロータリークラブ 社会奉仕委員 久保田 伸治



今年は10年目。参加者は、三島市だけでなく伊豆地域や富士山南東麓にも広がっている。多くの人に静岡県東部の豊かな自然環境やその、貴重性を学ぶ場を提供していきたい。

講師：滝 道雄 参加者 35名
午前：楽寿園（三島市）「野鳥観察会」
午後：Via701(三島市)

「ネイチャークラフト」・まとめ

メジロとコゲラの群れに迎えられ観察会がスタート。双眼鏡を覗きながら鳥たちの動きについていくのに必死。楽寿園にはコゲラ、アオゲラが生息し、大きな木の約3mの高さに巣穴を見つけた。池の周りにはカワセミやマガモ、カルガモ。照葉樹の暗めの森の巣箱には、シジュウカラが苔や動物の毛を集めていた。

講師は「鳥が住むには、日差しが差し込む明るい森や、木々がうっそうとした森、池やせせらぎが流れる森など多様な環境が必要」と説明。12種類の鳥を観察。午後には、「木育の玉手箱」を使って、木の感触や香り、年輪や木材の構造、種子の違いについて学び、木を使った作品にもチャレンジ。

竹あかりイベント



2月4日、風もなく穏やかな夕暮れ、三石神社境内で竹あかりイベントが開かれた。今年で6回目になるこのイベントには、多くのボランティアが作成した100個ほどの竹あかりを展示した。

三島名物のウナギや動物など様々な形がくり抜かれた竹にろうそくのほのかな光がゆらぎ、ロマンチックで幻想的な風景を醸し出していた。大きなハートを演出したものや、被災地東北の復興を願う作品も見られ、竹あかりに込められた人々の深い思いがうかがえた。また、商店街が主催した地口行灯も点灯し、訪れた人々は足を止め、江戸時代から受け継がれた言葉遊びを楽しんでいた。

第4回 テーマ「身近な環境保全、再生の手法を学ぼう」

12月3、4日（三島市内）参加者 22名

1日目：「みどり野ふれあいの園」で公園の歴史、維持管理の手法を学んだ。元町内会長の森昭夫さんから、GW三島が担った役割などの話を聞いた。全てが手作りで住民により整備された公園に参加者は興味津々だった。

2日目：「沢地グローバルガーデン」の定例作業を体験。草刈り、チューリップやビオラの植え込み、ガーデン内の小道のロープ張り、やりがいや今後の課題などについて話を聞いた。



第5回 テーマ「住民参加の公園づくりを学ぶ」12月10、11日（境川・清住緑地）参加者 26名

1日目：小学生が参加する収穫祭での餅つきと現場体験、植生・環境保全についての座学。その後、野鳥観察、植生の講義。現場を視察し、植えられている植物の特徴・理由や今後の整備・保存について学んだ。参加者は、熱心に講義に耳を傾け次々に質問を投げかけた。



2日目：防災センターでワークショップ。参加者は、公園の今後に大きな可能性と楽しみを感じたようだ。

第6回 テーマ「地域の環境再生の手法」1月28、29日（大場地区）参加者 38名

1日目：大場地区「たからものマップ」作り、公民館でのグループディスカッション。歴史・文化・自然・景観、建造物の活用、様々なテーマでの発表と自慢の散策マップ。



2日目：三島南高ビオトープ整備。放置竹林で間伐した竹を利用し、周辺の囲い・ベンチ作り。



親子援農クッキングスクール開催

GW三島のふるさと、三島の食材を作り味わう「親子援農クッキングスクール」の活動が選ばれた！12月18日～3月末に料理教室4回・農業体験4回の計8回行われた。

連合会「レインボー・パル基金」は日本の「農林漁業の発展」「資源循環型社会づくりに向けた調査研究」「環境保全活動」「食育推進するための活動」などに対して資金面で助成している。2011年度は23団体の助成を決めた。（レインボー・パル基金）



茶筒のフタを使ってミニチラシ寿司作り



雛祭りのケーキづくり 夢はパティシエ

第1回	12月18日	料理教室「茶筒のフタでミニチラシ寿司」	講師：下郷みさ子	三島市民生涯学習センター	6名
	12月23日	農業体験「チンゲン菜の種まき」	指導：大川 保	三島市御園	10名
第2回	1月14日	料理教室「冬野菜ゴロゴロあったか味噌クリームシチュー、あつという間のサラダ、オニオンマフィン」	講師：平山はるみ	中郷文化プラザ	15名
		農業体験「麦踏み、菜っ葉・根菜類の収穫」	指導：大川 保	三島市御園	15名
第3回	2月19日	料理教室「雛祭りのためのほうれん草と人参のカラフルなスクエアケーキ、春が待ち遠しい菜花のバスタのミネストローネ」	講師：平山はるみ	中郷文化プラザ	15名
		農業体験「馬鈴薯の植え付けとチンゲン菜の間引き」	指導：大川 保	三島市御園	8名
第4回	3月20日	農業体験「馬鈴薯の植え付け」	指導：大川 保	三島市川原ゲ谷	20名
	3月24日	料理教室「三島大豆を使って、ざる豆腐・おから作り」	講師：細井 憲子	坂公民館	25名



ミニチラシ寿司



左からオニオンマフィン、サラダ、クリームシチュー



麦踏み体験で横歩き



スクエアケーキとミネストローネ作り



馬鈴薯をカットして植え付けの準備

21世紀塾代表の世界視 No.9

海外事情 イタリア編 9 GW三島 理事 小野 徹

「ローマの休日」は観光キャンペーン映画？

オードリー・ヘップバーン主演の『ローマの休日』は、実はローマ市の観光促進を目的として企画されたタイアップ映画だという噂がある。

何しろ、「トレヴィの泉」、「スペイン広場」、「ヴェネツィア広場」、「真実の口」、「サンタンジェロ城」、「コロナ宮殿」、「国立絵画館」と、映画に関係した場所はすべてが、ローマの大観光名所だから、そんな噂も立つのかも知れない。真実は全くの逆で、そもそも、ローマ教皇の発願で、古代ローマの水道を利用して造られたという「トレヴィの泉」は、泉の中心の海神ネプチューンの芸術性もあって、古くからの名所でもあるが、「スぺ

イン広場」やその前の「スペイン階段」は、まさに『ローマの休日』のおかげで、観光名所になってしまったところだ。

それも、映画の中でアン王女が、庶民的に「ジェラート（アイスクリーム）」をうまそうに食べていたことから、階段に座ってこれを食べないことには、ローマに来たかいたがないようなことにもなってしまう。

もっともはなはだしいのが、アン王女が手を入れた途端、グレゴリー・ペック扮する新聞記者から、「嘘つきは、手を抜ける」と言われて、思わずキャーという悲鳴をあげた「真実の口」だ。

もとは古代ローマ時代の井戸のふたと

されるこの円盤は、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会という古いが、そう目立たない教会の入口付近にあるのだが、『ローマの休日』で一躍有名になり、映画のように恐る恐る手を入れてはしゃぐ観光客で、ひきもきらない。

あなたも、ローマへ来て、若く、美しく、初々しいオードリーのように、一度「真実の口」に手を入れてみませんか？——自信があれば？ですが。



いつも観光客でごった返している「トレヴィの泉」



パルカッチャの泉(舟の噴水)のあるスペイン広場から見たスペイン階段



スペイン階段に座ってジェラートを食べる



サンタ・マリア・イン・コスメディン教会



「真実の口」

過ぎゆく三島 いつまでも その9

『この世をば どりゃおいとまに

せん香の 煙りと共に 灰左様なら』

戯作者・十返舎 一九

十返舎 一九 (明和2年～天保2年、1765～1831) 日本で最初に文筆のみで自活した江戸時代後期の戯作者。駿河国府中(駿府：現在の静岡市葵区)で町奉行の同心の子として生まれ、本名は重田貞一。父の後を継ぎ駿府町奉行所に勤め奉行に従って江戸に出た後大阪に移る。大阪では年来の作家を目指し、近松門左衛門の門下生となり、役人を続けながら近松与七の名で他の門下生と合作で浄瑠璃本を書き上げた。この頃、十返舎の号を香道の「黄熟香の十返し」に因んでつけ、武士の片手間ではだめだと考え、年俸12両の役人生活に見切りをつけ、寛政6(1794)年30歳で江戸へ戻り、現在の日本橋の出版商、蔦屋重三郎方に居候した。

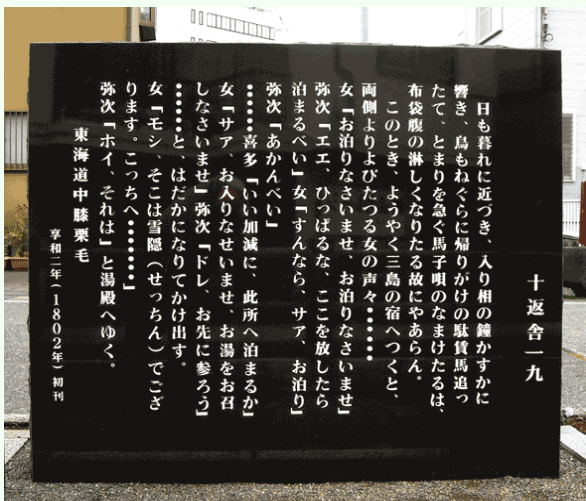
享和2(1802)年、初刷りの滑稽本『東海道中膝栗毛※』が大ヒットとなり、洒落本作家の地位を確立した。その後、文政5(1822)年までの20年間に次々と8編を書き継ぎ大流行作家となった。これらの背景には、人々の識字率の高まりにより、貸本屋を通じた一般読者の増加があったと思われる。

『東海道中膝栗毛』は、江戸神田八丁堀枳面屋弥次郎兵衛と居候の喜多八「弥次、喜多」という2人の町人を主人公に、東海道の名所紹介を軽妙なやりとりでの道中記に仕立てた。この滑稽本は、当時の娯楽小説として爆発的なベストセラーとなり、江戸中の風呂屋や床屋は一九の話題で持ちきりだったという。

また彼は、そのユーモラスな作風とはおよそ対照的に変わり者であったともいわれている。一時期は相当裕福な暮らしをしていたようだが、20年にわたっての人気作家であったにもかかわらず、晩年は酒におぼれて借家住まいの貧乏世帯であった。その貧乏にまつわる一九の奇行の1つに、「ある年の新春、年賀に来た客を無理矢理に入浴させ、その間にその客の着物はじめ刀まですべてを拝借して、近所に新年の挨拶をすませた」というエピソードがある。

『この世をば どりゃおいとまに せん香の 煙りと共に 灰左様なら』 辞世の句を用意し、67歳で没した。

※膝栗毛とは、自分の膝を馬の代わりに使う徒歩旅行のこと。



十返舎 一九

ご寄付を
ありがとうございました。

「子どもを元気に！
富士山プロジェクト」のために

- * 御殿場高原「時之栖」様 196,580
- * みしまプラザホテル様 224,000
- * 音楽館 Probe 様 85,500
- * ダイワオート様 100,000
- * Moon River Walkers 様 212,000
- * ジャズサロン「サティエ」様 187,000
- * 募金（個人 26 人と 10 団体） 1,663,975

合計 2,669,055 円



過ぎゆく三島を未来に残すために、あなたが撮った三島市内の風景や風物写真を随時募集しています。GW三島の印刷物に使わせていただく場合もあります。

『塚田邸のガレージの
上に舞い降りたアオサギ』
山崎多紀子さん撮影

三島市内の写真集



『三島梅花藻の里で、
毎年 12 月に咲くヒマラヤザクラ』
村上茂之さん撮影
Eメール：info@gwmishima.jp

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日、一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。

GW三島活動記録 2011年12月1日-2012年3月31日

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数
12	2	金	子どもを元気に富士山プロジェクト(12/2~4)	「心を元気にするショートツアー」バスケットボール交流	伊豆市、三島市内	141
12	3	土	ふるさと三島・島と街中連携協議会主催(12/3-4)	第4回グリーン・ジョブ研修1、2(手づくりミニ公園整備・巡り)	三島市内	22
12	4	日	源兵衛川下流部第7ゾーン環境再生 平成23年度第3回理事会・評議員会	市民モニタリング調査① 20周年記念に向けての取組み、方向性について	源兵衛川第7ゾーン 三島市民活動センター	20 18
12	10	土	境川・清住緑地愛護会 インストラクター養成講座～境川・清住緑地編 ふるさと三島・島と街中連携協議会主催(12/10-11)	講義③ふるさとの森と植物たち 第5回グリーン・ジョブ研修1、2(収穫祭・ワークショップ)	境川・清住緑地 境川・清住緑地	80 13
12	18	日	源兵衛川下流部第7ゾーン環境再生 親子援農クッキングスクール	環境再生ワンデイチャレンジ①外来動植物一掃・草刈り大作戦 食育①茶筒のフタでちらし寿司ほか	源兵衛川第7ゾーン 三島市民活動センター	32 6
12	23	金	箱根西麓ふるさと環境再生協議会 子どもを元気に富士山プロジェクト(12/23~25)	親子援農クッキングスクール 農業①チンゲン菜の種まき	三島市御園 三島街中カフェ	10 18
12	31	土	箱根西麓ふるさと環境再生協議会 源兵衛川下流部第7ゾーン環境再生	「三島そば」そば打ち教室① 「石巻少年少女合唱隊を励ますコンサート」ツアー	三島街中カフェ 時之栖・みしまプラザホテル・三島市内	20 123
1	14	土	源兵衛川下流部第7ゾーン環境再生 松毛川千年の森づくり	環境再生ワンデイチャレンジ②ヘドロ除去・冬の生き物観察会 松毛川の現地視察後、御園公民館で講義	源兵衛川第7ゾーンなど 松毛川・御園公民館	25 13
1	15	日	親子援農クッキングスクール インストラクター養成講座～境川・清住緑地編 松毛川三日月ふるさと協議会	麦踏み(むぎふみ)体験・クッキングスクール 講義④水辺の価値と生物多様性 アグリモニターツアー	三島市御園・中郷文化プラザ 境川・清住緑地 松毛川	15 12 17
1	21	土	鎮守の森探検隊 慶切不動尊例祭 箱根西麓ふるさと環境再生協議会	⑨野鳥観察会、ネイチャークラフト、まとめ 例祭	楽寿園、Via701 慶切不動尊 三島街中カフェ	35 9 15
1	28	土	ふるさと三島・島と街中連携協議会主催(1/28-29)	「三島そば」そば打ち教室③ 第6回グリーン・ジョブ研修1、2(地域のたから・まとめ)	大場地区	38
1	29	日	源兵衛川下流部第7ゾーン環境再生 源兵衛川下流部第7ゾーン環境再生	環境再生ワンデイチャレンジ 市民モニタリング調査②	源兵衛川第7ゾーン 源兵衛川第7ゾーン	16 10
2	4	土	水の都・三島街中再生協議会主催 竹あかりイベント	講義⑤まとめ・修了式	境川・清住緑地 三石神社	8 100
2	11	土	松毛川エコレンジャー養成講座① 子どもを元気に富士山プロジェクト(2/11-12)	松毛川で観察される冬鳥たち～松毛川の冬鳥を学ぶ 「心を元気にするショートツアー」静岡県内避難者交流	松毛川 裾野、御殿場、三島、沼津	8 78
2	16	木	松毛川エコレンジャー養成講座② 子どもを元気に富士山プロジェクト	植物と生態系から見る松毛川の環境・概要・植生 リバーカヤックから見る冬の狩野川①	三島市民活動センター 狩野川・伊豆の国市	13 9
2	19	日	親子援農クッキングスクール 親子援農クッキングスクール	季節の野菜を使ったレシピ(スープ・パスタほか) 農業体験(チンゲン菜の間引きと馬鈴薯植え付け)	中郷文化プラザ 三島市御園	15 8
2	22	水	箱根西麓ふるさと環境再生協議会 箱根西麓ふるさと環境再生協議会	「葉草教室～ミシマサイコ編」身近な葉草と生薬(座学) エコ・アグリツアー「そば打ちと馬鈴薯植え付け」	Via701ホール 農村カフェ・箱根西麓	25 15
2	25	土	水の都・三島街中再生協議会主催 松毛川千年の森づくり	まちなかにぎわいイベント(ガーデニング教室) 植林	三島街中カフェ 三島市御園	8 30
2	26	日	松毛川三日月ふるさと協議会 松毛川三日月ふるさと協議会	「葉草教室～ミシマサイコ編」～発芽と栽培方法～(実学) プランターで家庭菜園①スナップエンドウ、キタアカリ	三島市御園 三島市御園	15 10
3	2	金	水の都・三島街中再生協議会主催 松毛川エコレンジャー養成講座④	モニターツアー(街中の魅力再発見) 狩野川が生んだ山・守山を歩く②	三島市内 守山・伊豆の国市	7 11
3	10	日	松毛川エコレンジャー養成講座⑤ 親子援農クッキングスクール	水面から眺める森と鳥の関係～ゴムポートで観察 馬鈴薯植え付け⇒雨天のため3/20に延期	松毛川 箱根西麓	14 11
3	11	日	松毛川千年の森づくり 子どもを元気に富士山プロジェクト	松毛川の森を教え！スタートアップ・ワンデイチャレンジ シンポジウム	松毛川 社会福祉協議会4階	11 50
3	12	月	子どもを元気に富士山プロジェクト	チャリティコンサート	みしまプラザホテル	100
3	15	木	源兵衛川専門委員会 松毛川エコレンジャー養成講座⑥	専門委員会 水辺の生き物から見た松毛川～冬の水生生物を学ぶ～	三島市民活動センター 松毛川	20 10
3	17	土	子どもを元気に富士山プロジェクト(3/17-18)	石巻応援ツアー	石巻	30
3	20	火	源兵衛川ホトケジヨウ環境再生 松毛川エコレンジャー養成講座⑦	ワンデイチャレンジ(外来生物除去、在来種移植、ワンドの造成) まとめ～ふるさとの森・松毛川の今後を考える	源兵衛川中流部 松毛川	20 7
3	21	水	松毛川エコレンジャー養成講座⑧ 平成23年度第4理事会・評議員会	ワンデイチャレンジ(植林)	松毛川	24
3	23	金	松毛川千年の森づくり 親子援農クッキングスクール	平成23年度報告、平成24年度計画 三島産大豆を使って、簡単豆腐づくり(豆腐、おからサラダ他)	Via701ホール 松毛川	30 24
3	24	土	子どもを元気に富士山プロジェクト(3/24~26)	スポーツ交流	坂公民館 三島市内、御殿場	25 83

視察来訪者記録 H23.12.1～H24.3.31

月	日	団体名	人数	地域
12	14	静岡県議会企画文化観光委員会	14	静岡
12	18	東京農工大学地域生態システム学科実習	13	東京
1	15	立教大学セカンドステージ	17	東京
2	5	篠田グループ(竜丘自治振興センター)	14	長野
2	8	法政大学 水と緑フォーラム・HOSEI	15	東京
2	20	明治学院大学関係者ほか	3	東京
2	24	堺市環境総務課	1	大阪
3	26	武蔵野市消費者運動連絡会	30	東京

東京農工大学



12月18日、源兵衛川第7ゾーンで行われた環境再生ワンデイチャレンジに、東京農工大学地域生態システム学科の学生18人が参加しました。堆積したヘドロや、外来生物の除去などを協力して行い、源兵衛川は本来の姿を取り戻しました。

法政大学
水と緑フォーラム・HOSEI

2月8日、法政大学の「水と緑フォーラム」15人がヒヤリングに訪れました。事前の質問を含め、小松幸子理事と村上茂之事務局長が対応しました。

法政大学の学生からは、「私個人としては無関心層を巻き込むために必要なことや、行政との関係のあり方など、様々なことを学ぶことができました。またユニークな『バイリンガル環境かるた』を体験させていただき、楽しい時間を過ごすことができました。今回、伺ったお話を自分たちの研究に活かしていけるよう邁進してまいります」と御礼メールが届きました。



『バイリンガル環境かるた』を
楽しんでいる法政大学の学生

グラウンドワーク三島編集室(50音順)ボランティアニュース46号の編集ほか(GW三島事務局担当:山田昭子) 岸野和子 城所但帝 小松幸子 斎藤彩子 本田博子 前田充子 水野幾子 村澤 圭 山崎多紀子

GW三島
事務局の
新スタッフ



わたなべ ゆか
渡辺 由香

〈定例作業〉

- 三島梅花藻の里・・・22回
- 鏡池ミニ公園・・・4回
- 桜川・・・4回
- 宮さんの川・・・毎日
- 源兵衛川・・・2回
- 沢地グローバルガーデン・・・4回

〈定例会〉

- インストラクター会議・・・4回
- スタッフ会議・・・2回
- 編集会議・・・15回
- 地域社会雇用創造事業会議・・・5回
- 三島街中カフェ開店日数・・・82日